

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

児童の人間関係力を高める道德教育の充実を図り、進んで友達や地域の方の役に立とうとする公共心の育成に取り組んだ。児童は、道德の授業をはじめ、行事・特別活動や地域・PTAでの取組を通して、友達や学校のためのために進んで働こうとする気持ちが高まった。また、道德研修、道德の授業研究を通して、教員の道德教育に対する意識を高め、授業力を向上させることができた。

1 推進校（又は推進地域）の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児童数	備 考
阿久比町立南部小学校	愛知県知多郡阿久比町大字植 大字北後24	0569(48)0014	404 人	

2 研究課題

- ・学校、家庭、地域が連携を図り、思いやりの心で助け合い、社会の一員として進んで役に立とうとする公共心を育む道德教育の充実
- ・体験活動や異学年交流活動を通して人間関係力を高める道德教育の充実

3 研究主題とその設定理由

「共によりよく生きようとする心の育成を目指して」
—人間関係力を高める道德教育を通して—

本校の学区は、農地や樹林地も残っており、比較的自然にも恵まれた場所である。その一方、住宅や大型店舗などが建てられ、旧地区と新地区の混在する地域である。そのため、近隣から転居した新しい世帯が多い。

したがって、学校という場は、お互いを知る小さな母体集団とも言える。やがて小さな社会から巣立ち、地域を支える次世代の人々を育成していくためにも、道德教育を中心とした集団生活における思いやりを養っていく必要があると考える。

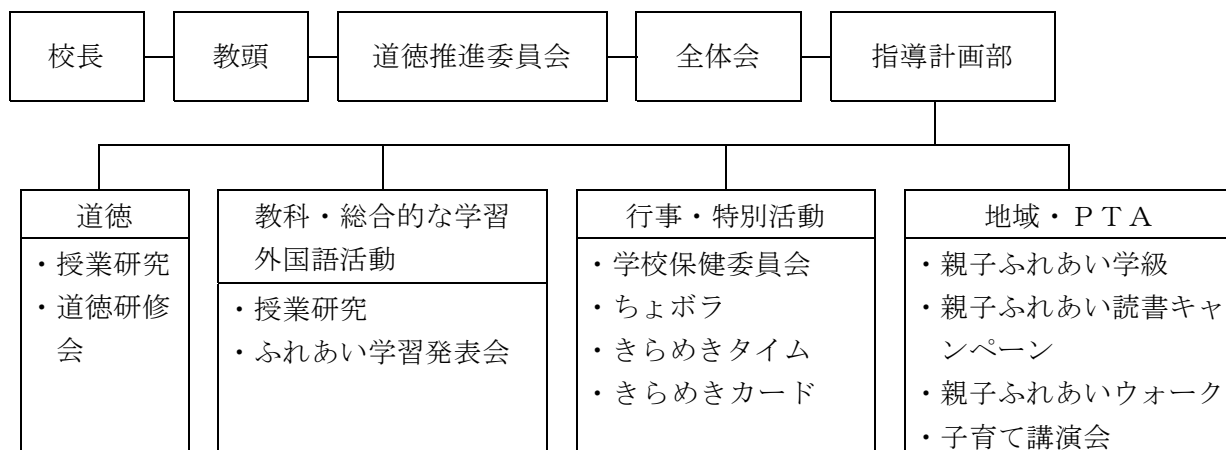
本校では、あぐい教育の日を設け、保護者や地域の人々等に道德の時間の授業を公開し、学校と家庭や地域が連携して児童の豊かな心を育む活動に取り組んできた。しかし、まだ学校生活における体験活動や異学年交流においても、自分の役割を自覚し、集団や社会のために、主体的に人間関係を築き行動しようとする意識は低い。そこで、児童の人間関係力（家族、友達、地域の方とつながりを持ち、自分の役割を果たそうとする力）を高める取組を実践することで、児童の公共心を育成したいと考え、本研究に取り組んだ。

4 研究の概要及び特色

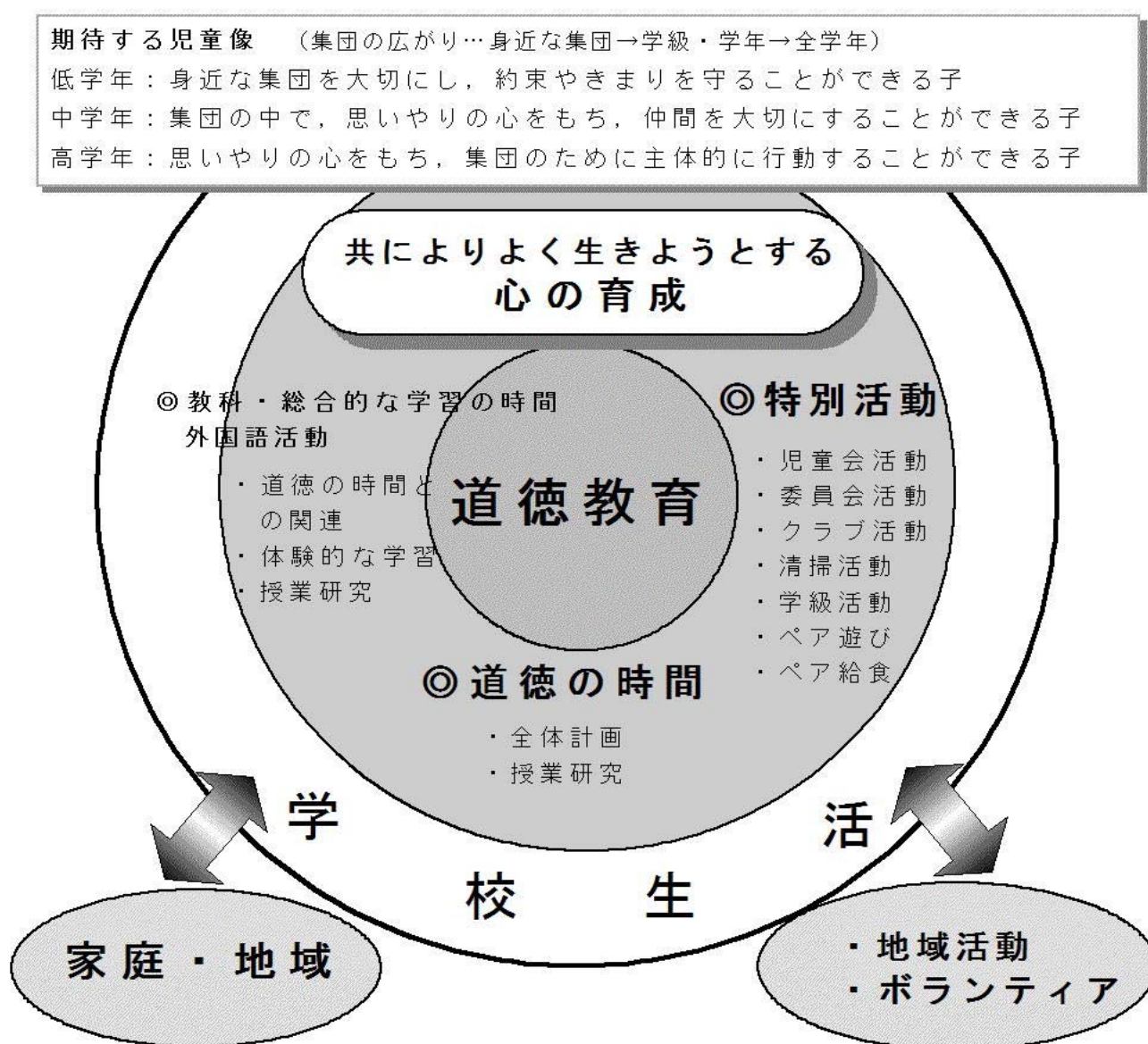
（1） 研究の仮説

学校生活全般を通して、道德教育との関連付けを意識した学習活動を重視し、体験的な学習を意図的・計画的に設定すれば、友達の気持ちを推し量る思いやりの気持ちを育むことができるであろう。さらに、思いやりの気持ちが高まれば、互いの結び付きも強くなり、やがて集団や社会のために主体的に行動できる児童を育成できるであろう。

(2) 研究組織



(3) 研究構想図



(4) 研究課題にかかわる取組

ア 指導計画部による年間指導計画の見直し

1年間の道徳教育の洗い出しを行い、指導計画一覧表を作成した。1年を通した実践計画であるため、学期ごとに修正を加えた。

イ 道徳の時間の授業研究

道徳の時間の授業研究を実施した。本時のねらいに迫る効果的な中心発問や補助発問に焦点を当てた。研究協議会では、板書を拡大コピーを活用し、効果的な発問や板書について話し合った。また、前述の前田治先生にも参加していただき、ご示唆をいただいた。

「あぐい教育の日」の公開道徳授業では、それまでの授業研究で学んだことを実践した。

ウ 道徳研修会

8回の研修会を前田治先生にご来校いただき、実施した。道徳の授業の組み立て方、発問、板書について、読み物資料をもとにご指導いただいた。

エ 教科・総合的な学習の時間の授業研究

教科の特性を生かしながら、道徳的な心情を育てることをねらいにした。教材そのものの中に道徳的な心情を育てる部分を見い出したり、授業の中で、友達の発言をしっかりと聞く姿勢を指導したり、試行錯誤を繰り返した。また、6年生の総合的な学習の時間には、実際に地域でボランティア活動に従事したり、ボランティア活動に携わっている大人の方から、ボランティア活動を継続するには何が大切かの話を聞いたりした。

オ ふれあい学習発表会

教科や総合的な学習の時間で実践した体験的な学習活動の発表の場を設定し、家庭や地域の方をお招きし、児童の人間関係力を高めることを目的として共に活動していただいた。

学 年	内 容
1 年	来年度南部小に入学する町内の園児を招待して、あきまつりを開催。木の実を使った遊びのコーナーを作り、一緒に遊んだ。
2 年	自分たちで育てた野菜を使って、野菜料理を作り、保護者を招待して一緒に会食した。
3 年	地域のお年寄りや祖父母から教えていただいた独楽回しやお手玉などの昔の遊びの発表会を開催。お年寄りや保護者と一緒に遊んだ。
4 年	2分の1成人式を開催し、手紙や歌で保護者に感謝の気持ちを伝えた。
5 年	地域の農家の方や農協女性部の方々に教えていただいて稲作を体験し、収穫祭を開催した。体験活動でお世話になった方々を招待し、体験活動を振り返り、収穫したお米を使っておにぎりを作って会食した。
6 年	保護者を招待し、6年間を振り返る会を開催。歌とプレゼントで感謝の気持ちを伝えた。

カ 学校保健委員会の取組

「知ろう、つかおう、コトバのチカラ」というテーマで学校保健委員会を行った。保健委員がふわふわ言葉やチクチク言葉について発表した。発表の中では、言われた相手の気持ちを考え、ふわふわ言葉を増やす方法を具体的に紹介した。その後も、保健室前に参加者から言葉を集めた「ふわふわ言葉プレゼントボックス」を設置し、自分への励ましとして使えるようにした。その際に、参加者から集めた言葉のカードを入れた「ふわふわ言葉プレゼントボックス」を保健室前に設置した。

キ ちょボラの実施

ちょボラ（ちょこっとボランティア）は、児童がみんなのためにできることを見つけ、委員会の仕事に関連させて呼びかけて行った。体育委員会の呼びかけによる運動場整備、総務

委員会の呼びかけによるあいさつ運動、緑化委員会による落ち葉集め等、多くの児童が進んで参加した。

ク きらめきタイムの実施

2学期から、「きらめきタイム」と称し、児童が友達（日直）の一日の様子を観察し、自己の観点で素晴らしい点を見つけ、帰りの会で発表し合う時間を設定した。友達に褒めてもらうことで、自己肯定感を高めるとともに、みんなのために尽くしたいという公共心を育てたいと考えている。

ケ きらめきカードの設置

友達の模範となるような行為を見つけた児童が、その内容をカードに記入し、それを渡り廊下の児童会掲示板に掲示した。張られたカードについて、朝会で児童会役員が紹介したり教員が学級で紹介したりして、広めていった。

コ 親子ふれあい学級

P T A研修委員会の企画による親子ふれあい学級を行った。まず事前に用意した親から子へ、子から親への手紙をその場で交換した。普段思っている、なかなか言えない感謝の気持ちや伝えたいことをつづった。互いに読み合う表情は、とても微笑ましく、家族の絆を感じる場となった。

サ 親子ふれあい読書キャンペーン

阿久比町の幼保小中一貫教育プロジェクトで行っている親子ふれあい読書キャンペーンでは、秋の読書週間にちなんで、親子で読書する時間を設けている。親子で一緒に読んだり、親が子に読んであげたり、様々な方法でふれあいを啓発している。「テレビを見る時間を減らして一緒に読書したことで、普段より会話が増えた」などの感想もあった。

シ 親子ふれあいウォーク

ふれあいウォークは、P T Aとコミュニティが共催して行っている。地域を家族で散策して楽しむウォーキングである。距離は4キロほどあり、歩き終えると心地よい気持ちになりとても楽しい行事となっている。

ス 子育て講演会

「子どもの公共心をはぐくむために」をテーマに親業インストラクターの松尾千景氏を講師に招き、保護者を対象に講演会を実施した。子どもにどのような言葉かけをしていけばよいか演習中心の講演会で、保護者からも「とても具体的で分かりやすく、実践していきたい」という感想を聞くことができた。

5 研究の評価

(1) 研究の成果

児童は、道徳の時間をはじめ、特別活動や地域・P T A活動での取組を通して、様々な人々とつながりをもち、さらに所属意識が高まり、集団や社会のために働きたいという気持ちをもつことができた。道徳に関するアンケート結果からも、友達やみんなのために進んで働こうとする気持ちが高まってきたことが分かった。

また、道徳研修会や授業研究を重ねる毎に、発問や板書について教員から意見がいろいろと出されるようになった。教員の道徳教育に対する意識が高まり、授業力を向上させることができた。

(2) 今後の課題と取組

道徳に関するアンケート結果から、高学年では、「学校の一員としての役わりや責任をしっかりと果たしている」の設問でポイントが下がっていることが分かる。「みんなのために」という意識が高まったため、自分の行動にまだまだ満足できない児童が増加したためと考えられる。今後は、自己肯定感をさらに高めるとともに、児童が活躍できる場をより多く設定し、実践力を高めていきたい。